



岐阜県の森林・林業

No.867

2025 December

FREE

ご自由にお持ちください。



森のたより

寒い冬こそ きのこのパワー!



開催日	行事名等	内 容 等	場 所
			申込(問合せ)先/TEL
12月19日(金)	狩猟免許試験 (第一種銃猟、第二種銃猟)	<p>狩猟免許取得のための試験を実施します。</p> <p>●時間：9:30～17:00</p> <p>●申込：11/21～12/5</p> <p>※事前に申請書類等の提出が必要です。 詳しくは右記にお問い合わせください。</p>	<p>恵那総合庁舎 大会議室</p> <p>各地域を所管する県事務所等、 または環境生活政策課 TEL:058-272-8231</p>
令和8年 1月17日(土)	岐阜県みどりの 少年団活動発表大会	<p>●みどりの少年団が日頃の活動について発表します。またモリノスでの交流行事も計画しています。</p> <p>●時間：10:00～15:00(予定)</p> <p>●参加の申し込みを受け付けています。</p>	<p>美濃市曾代 岐阜県立森林文化アカデミー 森の情報センター、モリノス</p> <p>公益社団法人 岐阜県緑化推進委員会 TEL:058-273-7577 FAX:058-273-7547</p>



イベントカレンダー(一般向け).....2	目次 Contents
清見中学校緑化少年団が 全国緑の少年団活動発表大会にて活動発表を行いました.....3	
「ぎふ林業甲子園2025」開催！.....4	
令和7年度林政部優良工事施工者表彰式を開催 ～林政部長表彰～.....5	
シリーズ「ぎふ木育全県展開」⑧ ～郡上地域～ 木の香るぎふの施設⑫ 木と緑が調和する快適社屋.....6	
県による森林環境譲与税の活用について(令和6年度) Gークレジットの新規認証について.....7	
森林の土地を取得したときは市町村への届出が必要です！ 山の歳時記⑫ フユイチゴ.....9	
森林と人を活かす知恵⑫ 通える「森林」を持つ.....10	
―感性を養う身近な自然との親しみ方― ぎふ木遊館通信.....11	
morinos「森のじかん」紹介!!.....12	
シリーズ「森林・環境税」で緑豊かな清流の国ぎふづくり.....13	
シリーズ「森林・環境税」で緑豊かな清流の国ぎふづくり(8).....14	
研究コーナー.....15	
①スギ心去り平角の内部割れを抑える処理方法の検討.....16	
②小径広葉樹材の有効利用技術の開発.....17	
普及コーナー 誘引補殺器による蜂刺され対策について.....18	
林業普及指導員中部北陸ブロックシンポジウムを開催しました.....19	
国有林の現場から⑫.....20	
令和7年度 岐阜地区国有林野等所在市町村長有志協議会開催.....21	
林業者向けお知らせ.....22	
市況.....22	

今月の表紙



写真は3年前に夫婦で愛知県から移住し、関市内で菌床しいたけ栽培を行う南さん。きのこ類は食物繊維やビタミンなどが豊富で、健康維持に役立つ食材と言われています。

清見中学校緑化少年団 が



全国緑の少年団活動発表大会にて活動発表を行いました

10月4日、宮城県白石市の白石市文化体育活動センターにおいて、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えして「全国緑の少年団活動発表大会」が開催され、「みどりの奨励賞」に選考された高山市立清見中学校緑化少年団の中村 こなつ（なかむら こなつ）さん、丸山 咲季（まるやま さき）さんが活動内容を発表しました。

また、翌5日に開催された「第48回全国育樹祭式典行事」の全国育樹祭大会会長表彰は、阿部 水環（あべ みわ）さん、塩谷 ひより（しおたに ひより）さんが、さらに「緑の贈呈」として、宮城県のみどりの少年団が育てたケヤキなどの苗木を新井 楓也（あらい ふうや）さん、甲 琉夏（かぶと るな）さんがそれぞれ代表して受領しました。

◆清見中学校緑化少年団のご紹介と発表状況

令和4年度に結成された新しい団体ながら、林業や木材産業に関わる分野を中心に、極めて高度かつ総合的な活動を精力的に展開しています。

今回の発表では、森林の管理方法や間伐の重要性について学んだ森林学習、間伐作業体験、さらに伐採木の市場での取引から加工・商品化される過程を見学し、清見の木の価値や素晴らしさを学習した様子などが紹介されました。また、発表の締めくくりには、『森林の恵みに対する感謝の念を込めつつ、清見の森林を守り、未来へと活かしていく担い手として、自らができることから着実に行動していく』と力強く決意が述べられ、会場の多くの方が感銘を受けていました。

全国みどりの少年団活動発表大会



清見中学校緑化少年団
左から 中村さん、丸山さん、新井さん、
甲さん、塩谷さん、阿部さん、三島教頭



発表の様子



みどりの奨励賞表彰

第48回全国育樹祭



全国育樹祭大会会長表彰



緑の贈呈(ケヤキの苗木)

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 田中 敏隆】

「ぎふ林業甲子園2025」開催！

9月13日、残暑の名残が感じられる初秋の森（県立森林文化アカデミー）に未来の林業を担う若者たちが集結し、「ぎふ林業甲子園2025」が盛大に開催されました。

これは、県内で林業を学ぶ高校2年生たちが、学校の垣根を越えて知識と技術を競い合う大会です。授業では味わえないリアルな林業の現場を体験し、日頃は余り交流のない他校の仲間たちと心を通わせることで、将来の進路や職業への新たな扉を開くきっかけとなることを願って開催されています。

主催は、公益社団法人岐阜県森林公社「森のジョブステーションぎふ」。共催は「県立森林文化アカデミー」。

今年で第3回目を迎えたこの大会には、岐阜農林高校、加茂農林高校、恵那農林高校、飛騨高山高校の4校から、計11名の生徒が参加しました。

そして今年も、ぎふ森ジョブアンバサダーとして「さばいどる かほなん」が



参加し、競技開始の合図や丸太切り競争にも果敢に挑戦しました。彼女の笑顔とエネルギーが、会場に一層の熱気と笑顔をもたらししました。

競技種目は次のとおりです。

林業競技種目

①選木競技

10m×10mのプロット内で、自分の家の柱材として育てる木と間伐する木を選定する。



選木競技の状況

②伐採木判定競技

伐採する木の「樹高」、「樹齢」、「市場価格」を予測する。

③樹種判別競技

板材の色や木目、葉の形、利用用途などから15種類の樹種を判別する。

④木材重量予想競技

ヒノキの柱材を持ち上げ、感覚で重量を予想する。

⑤安全装備着用競技

伐採作業に必要な安全装備品を正しく選び、時間内に着用する。

⑥道具判別競技

林業で使われる道具をジェスチャーで伝え、正しく選ぶ。

⑦丸太切り競争

丸太をのこぎりで制限時間内により多く輪切りにする。

※各競技には専門スタッフが付き、解説を交えながらサポートしました。



樹種判別競技の状況

【昼食交流会】

アカデミー学生から学校生活や学習などについて紹介され、協賛企業からは会社紹介などが行われるなど、参加者全員で交流を深めました。

大会の結果

優勝 加茂農林高等学校
準優勝 飛騨高山高等学校
第3位 恵那農林高等学校
第4位 岐阜農林高等学校

大会の様子と今後の展望

参加者たちは、最初こそ緊張した面持ちでしたが、時間が経つにつれてチームメイトやスタッフと言葉を交わす姿が見られるようになり、次第に表情も和らいでいきました。特に最後の「丸太切り競争」では、引率の先生方や競技スタッフも加わり、会場全体が一体となって盛り上がる、熱気あふれる締めくくりとなりました。

また、今年度は開催趣旨に賛同いただいた企業の協賛もあり、大会としての認知度も少しずつ広がりを見せています。

今後も「ぎふ林業甲子園」を継続し、より多くの若者たちに林業の魅力を届けられるよう、取り組みを進めてまいります。

最後に、本大会の開催にあたりご協力いただいたすべての関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。



集合写真

【森林経営課 担い手企画係】

令和7年度林政部優良工事施工者表彰式を開催 ～ 林政部長表彰 ～

県では、発注した公共工事において、他の施工者の模範となる優良な工事請負者を表彰することで、施工者の意欲増進、建設産業の社会的評価の向上を図るため、各工事所管部局で、毎年優良工事施工者表彰を実施しています。

林政部では、令和6年度に完成した林政部発注工事183件の中から、令和7年度林政部長表彰5件及び農林事務所長表彰8件を決定しました。このうち林政部長表彰について、令和7年10月20日（月）に岐阜県庁舎20階清流ロビーにおいて、表彰式を開催しました。

受賞されました皆様方には、地域の守り手として、益々ご活躍されますことを期待しています。

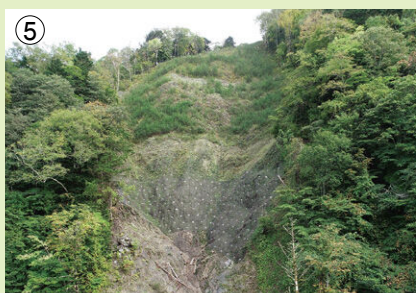
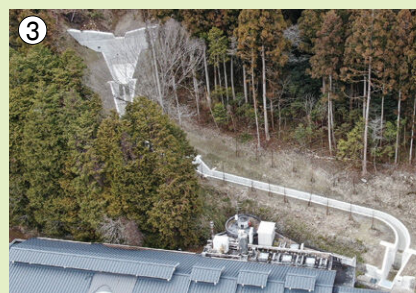
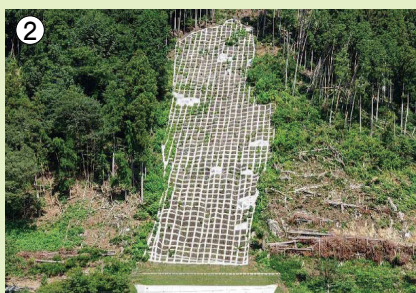
■令和7年度林政部長表彰の受賞者



※左から (株)所組、所産業(株)、久松林政部長、(株)西村工建、(株)中島工務店、坂本土木(株)

受 賞 者	林政部長表彰対象工事	写真番号
(株)所組	<治山工事(本巣市)> 公共復旧治山事業(ゼロ国) 内ン谷工事	①
所産業(株)	<治山工事(揖斐郡揖斐川町)> 災害関連緊急治山事業山平地区工事	②
(株)西村工建	<治山工事(美濃市)> 復旧治山事業石戸工事	③
(株)中島工務店	<林道工事(中津川市)> 山村強靱化林道整備事業森林基幹道 尾城山(5)ー2線開設工事	④
坂本土木(株)	<治山工事(高山市)> 公共ゼロ国 復旧治山工事(湯ノ平2)	⑤

受賞工事のご紹介



●詳しい内容を知りたい方は
TEL058-272-1111 内線(4314)
林政課政策企画係まで

* * * ~ 郡上地域 ~ * * *

県では、「ぎふ木育」を全県展開するため、10箇所の農林事務所ごとに、地域で活動する木育関係者の交流会や、行政と意見交換する連絡会議を開催しています。その開催状況や、地域でぎふ木育を進めるキーパーソンをシリーズで紹介しています。今号は郡上地域です。

交流会・連絡会議を開催

郡上地域の木育交流会では、木のジャングルジム「くむんだー」の体験会を行いました。参加者からは五感に響く木育の大切さや、木に直接触れることが木育のきっかけとなるという意見がありました。

郡上地域のキーパーソン

兼定 裕嗣さん(くむんだー郡上 代表)

Q どのような活動をしていらっしゃいますか？

郡上市産のスギやヒノキで作った、木のジャングルジム「くむんだー」を、市内の小学校や保育園へ持って行き、子ども達と組み立てや解体をするワークショップを開催しています。郡上市以外の県内の地域や、海外にも出かけて各地の学校やイベントでの活動も行っています。



Q 活動するうえで大事にしていることは何ですか？

「くむんだー」を組み立てたり、解体したりといったことには、遊びの要素がいっぱい詰まっています。子ども達にとっては全身を使って思いっきり遊ぶことは、とても大切なことです。私たちは、そこにさらに学びの要素を加えています。岐阜県や郡上市の山の状況や役割、環境保全の大切さ、そしてこれは私の本業の分野ですが、日本の伝統建築や歴史的背景にも触れてもらいます。子ども時代の経験を、大人になっても意外と覚えていることがあります。くむんだーで遊んだ楽しい思い出と共に、山や木、木造建築のことが何か記憶に残るような活動を心掛けています。



Q 「ぎふ木育」を郡上地域で推進するうえで必要なことは何だと思えますか？

岐阜県内はもちろんのこと、郡上市内でも木育に携わる方をはじめとして、木工や製材、建築など、「木材」に関わる方がたくさんいます。様々な分野の方と情報を交換し共有することがとても大切だと思います。これは横のつながりでしょう。そして、縦のつながりとしては、世代や年齢にとらわれない活動や交流を持続することが大切だと思います。「木育」というどうしても視線が幼児や子どもに向きがちです。もちろん幼少時から木材に慣れ親しむのは大切なことです。今までの活動をさらに推し進めることも重要です。そして、学生や青年期、成年期、壮年期と、生涯にわたって木に触れ親しむ環境を作っていくことが、自然が豊かな岐阜県・郡上地域ならではの「ぎふ木育」にとって必要なことだと思います。

木の香る
ぎふの施設

152

木と緑が調和する快適社屋

【住所】 土岐市土岐津町土岐口320

木造化



施設全景 撮影:パーミルフोटオフィス

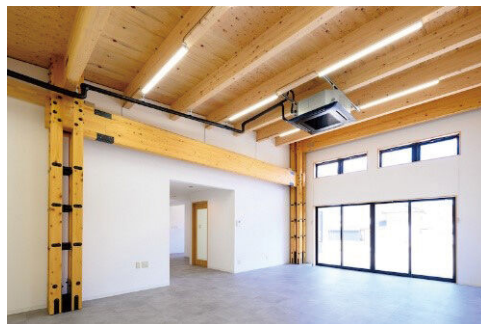
施設の概要

事業年度	令和6年度
事業主体	株式会社トキ工艺
構造 延床面積	木造1階建 250㎡
施設用途	作業場兼事務所
木材使用量 使用樹種	34.04㎡ スギ・ヒノキ
全体事業費	67,500千円
助成額	30,000千円(ぎふ県産材利用促進施設等整備事業)
設計者	有限会社山田一級建築設計事務所
施工業者	ヤマゴ建設株式会社
工期	令和6年8月29日～令和7年2月14日

施設の経緯

看板製作会社の社屋。長年の看板製作を通じて「伝わるデザイン」を追求してきた私たちは、自らの拠点にもその哲学を込めたいと考えました。そこで、機能性と美しさを兼ね備えた木造施設の建設を決意。囲柱ラーメン構造を採用し、開放感と木の温もりを活かした空間を実現しました。

自然素材のやさしさと、私たちが大切にしてきたデザインの力。この施設は、ものづくりの姿勢を体現し、訪れる人に感性と心地よさを届ける“もうひとつの看板”です。



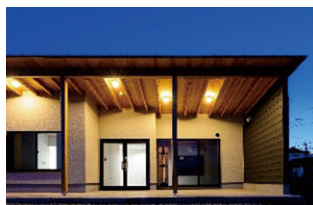
デザインスペース 撮影:パーミルフोटオフィス



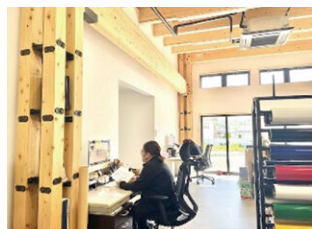
作業場内 撮影:パーミルフोटオフィス



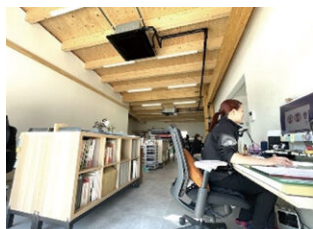
打合せ室
撮影:パーミルフोटオフィス



日没後のエントランス
撮影:パーミルフोटオフィス



施設利用者の様子



施設利用者の様子

ここに注目!!

室内から作業場に向けて伸びる連続した梁と、構造体である囲柱ラーメン木構造。常に木を感じる空間です。

利用者の様子

空間が広いことで作業スペースにゆとりができ、一連の流れをスムーズに行える環境になりました。常に木を感じることでできる空間はリラックス効果があります。

問い合わせ先

株式会社トキ工艺
TEL 0572-54-5722



県による森林環境譲与税の活用について (令和6年度)



令和6年度から森林環境税の課税が始まりました。皆さまに負担いただいた森林環境税を財源として森林環境譲与税が国から配分されています。令和6年度は、国から岐阜県へ約2億2千万円（県内の市町村には合計で約19億7千万円）の森林環境譲与税が配分されました。本県では、森林整備等を実施する市町村の支援などに活用しましたので、その主な内容を紹介します。

事業内容	決算額（千円） (内、譲与税充当額)
●市町村の体制等の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・地域森林管理支援センターの運営による市町村林務行政の支援 ・市町村林務行政の支援や民有林経営への助言等を行う人材である岐阜県地域森林監理士の養成や活用支援 ・県独自の森林由来のカーボン・クレジット制度である「G-クレジット制度」の運用 ・森林情報の精度向上及び岐阜県森林クラウドシステムによる森林情報の提供 	 G-クレジット制度プロジェクト登録証交付式 141,433 (内141,380)
●森林整備の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインの確保に向けた立木の事前伐採の支援 	25,676 (内25,676)
●人材育成・担い手対策の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・森林技術者の確保、育成、定着に向け、「森のジョブステーションぎふ」において就業相談会や安全講習等の受講を支援 ・東京圏以外からのUIターン促進のための移住支援金の交付 ・林業架線技術者の育成に向け、架線集材機械による一連作業を行うOJT研修の支援 	 森のジョブステーションぎふ事務所移転開所式 35,780 (内35,780)
●木材利用の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅建築物の木造化に携わる建築士の養成や、公共施設の木造化に関する研修会の開催 	6,768 (内6,768)
●普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・ぎふ木育の拠点施設である「森林総合教育センター（morinos）」の運営及び様々な森林教育プログラムの実施 	35,243 (内35,243)
合 計	244,900 (内244,847)

市町村の体制の支援をはじめ、人材育成・担い手対策、普及啓発等の施策を横断的に実施することで、手入れの行き届いていない森林の解消に向けた市町村による森林経営管理の取組みが進みました。

令和6年度の主な実績	
森林所有者への意向調査	3,427ha(25市町村)
経営管理権集積計画の策定	215ha(7市)
市町村が主体となり実施した間伐	598ha
新規就業者の確保	53名

岐阜県における森林環境譲与税の使途は、インターネットで公表しています。詳しい事業内容や事業実績については、県ホームページをご覧ください。

（県HP「森林環境税・森林環境譲与税」：

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/104589.html>）

●お問い合わせは TEL 058-272-1111 内線(4348) 森林活用推進課森林吸収源対策室森林吸収源対策係まで



G-クレジットの新規認証について



令和7年10月24日に第6回G-クレジット制度運営認証委員会を開催しました。

その結果を踏まえ、10月31日付けで7件のプロジェクトにおいて、合計で1,289t-CO₂のクレジットを新たに認証しました。加えて、郡上市が実施者となる新たなプロジェクトを1件、登録しました。

今後もG-クレジットの創出及び活用方法を拡充し、取引の活性化を図ってまいります。

今回認証したクレジット

項番	プロジェクト実施者	実施場所	認証量 (t-CO ₂)
1	中濃森林組合	関市板取	153
2	恵那市	恵那市岩村町	190
3	株式会社金山チップセンター	下呂市金山町	65
4	有限会社フォレスト板取	関市板取	206
5	可茂森林組合	美濃加茂市	112
6	NPO法人奥矢作森林塾	恵那市串原	386
7	高山市	高山市	177
合計			1,289

今回登録したプロジェクト

項番	プロジェクト実施者	実施場所	吸収量(総量見込) (t-CO ₂)
1	郡上市	郡上市	6,096
合計			6,096

※プロジェクト実施者の連絡先、取引可能クレジット量等は、G-クレジット制度運営事務局HP (<https://gcredit-gifu.jp/>) をご確認ください。
詳細な販売時期や条件等は、プロジェクト実施者にお問い合わせください。

事務局
Web →
サイト



森林の土地を取得したときは 市町村への届出が必要です!



新たに森林の土地を取得したときは、森林法の定めにより届出が必要です。注) 立木のみを取得した場合は、届出は不要です。

1 届出の対象となる森林は?

対象となる森林は、地域森林計画の対象となっている民有林であり、その区域は岐阜県HP「ぎふ ふおれナビ」(<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2264.html>) で確認することができます。

2 なぜ届出が必要?

行政が森林所有者に対して森林の整備等に関する助言をしたり、事業者が森林所有者に働きかけて間伐等の整備を行う森林を集約化して効率を上げたりするために、森林所有者を把握することが重要であるからです。



3 どのような場合に届出が必要?

個人か法人かによらず、売買、相続、贈与等で新たに森林の土地を取得した場合に必要です。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を行った場合は、森林の土地の所有者届出は不要です。

4 いつ、どこへ届出を出すの?

森林所有者となった日から90日以内に、取得した森林のある市町村の長に届出を行います。

5 どのような届出書を提出するの?

「森林の土地の所有者届出書」の様式に記入のうえ、次の書類を添付して提出してください。

添付書類 ①取得した森林の位置を示す図面(任意の図面に大まかな位置を記入)

②取得した森林の登記事項証明書、売買契約書の写しなど権利を取得したことがわかる書類

●届出書の様式など詳しくは、林野庁のホームページ(「森林の土地の所有者届出制度」で検索)をご覧ください。

6 もし、届出を出さないと?

届出をしない、または虚偽の届出をしたときは、10万円以下の過料が科されることがあります。



スギ林で夜露に濡れてルビーのように輝くフユイチゴを見つけました。

バラ科キイチゴ属のフユイチゴ (*Rubus buergeri*) は、カンイチゴ (寒莓) とも呼ばれ、関東以西のスギ林や照葉樹林、竹林などで見られます。

葉は円形で浅く3〜5裂し、葉縁には細かい鋸歯があり、葉表には毛はほとんどありませんが、裏面の葉脈上には毛が多く生えています。9月頃には枝先や葉腋に白

い花を5〜10個かたまつて咲かせ、冬には果実が熟します。

見明長門の『山口県の植物方言集覧』には、「吉敷郡小郡では冬期ヤマドリが実を好み、食べあとからヤマドリの生息を知ることができると記されており、ツルイチゴとかトキナシと呼ばれたとも記されています。他にも、鹿児島県の甕島 (こしきじま) では、果物のない冬に実がなることから「オヤコウコウイチゴ (親孝行莓)」と呼ぶそうです。

属名の *Rubus* はラテン語の *rubens* (赤) に由来しますが、なんと宝石のルビー (*Ruby*) も同じ語源とのことです。種小名の *buergeri* はシーボルトの助手として出島に滞在したドイツ人、ビュルガー (*H. burger*) の名に因んでいます。

フユイチゴの仲間には、コバノフユイチゴ (*R. pectinellus*)、ミヤマフユイチゴ (*R. hakonensis*)、オオフユイチゴ (*R. pseudo-*

sieboldii) などがあり、どれも晩夏〜秋に花を咲かせて11月〜翌年2月に赤い果実をつけます。

普段、マーケットで見るオランダイチゴ (*Fragaria ananassa Duchesne*) は、植物学的には果実ではなく花床 (かしょう) または花托 (かたく) が肥大成長したものです。フユイチゴなどキイチゴの仲間は、種子の子房が大きくなった小核果の集合体で、本当の果実とも言えます。

その昔、ヨーロッパでクリスマスケーキを飾るイチゴと言えば、フユイチゴの仲間を指したという説がありますが、丸型の白いケーキに赤いイチゴを乗せたものが主流なのは日本とアメリカだけらしいです。ヨーロッパのクリスマスケーキを見てみると、フランスは「クリスマス」の「薪」を意味するブッシュ・ド・ノエルが主流、イギリスはブルーツやナッツがたくさん入ったプラム・プディングが主流、イタリアはドライトフルーツを練り込んだパネトーネ

が主流、ドイツはパンに近い感覚のシュトレンとされます。

フユイチゴの果実はクエン酸やリンゴ酸、ビタミンCなどを含むため、疲労回復に有効です。生食も良いのですが、果実酒がおすすめです。果実をホワイトリカーに入れて、果実重量の3割程度の氷砂糖、少量のレモンを入れて約2ヶ月で完成します。2ヶ月後に果実を取り出してお酒を熟成させ、出した果実でジャムも作れます。



林床でルビーのように見事な果実をつけるフユイチゴ



森林と人を 生かす知恵 155

通える「森林」を持つ

— 感性を養う身近な自然との親しみ方 —

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 小林 謙一

忙しい現代。オーバーワークやテクノロジーの過剰な使用などで、慢性的なストレスを抱えている方も多いのではないだろうか。現代人に必要なのは、自分を整える時間です。身近な自然はいつでも私たちに穏やかな時間を与えてくれます。皆さんも「通える森林（もり）」を持つてみませんか？

◆秘密の場所

私は、都会で多忙な生活を送っていた二十年前に、《身近な自然の中に「秘密の場所」を持つ》というメソッドを、アウトドアサバイバル術を伝える川口拓さんの体験プログラムで知りました。アメリカ先住民が実践してきた「習慣」で、自然とつながる場所を見つけ、そこに静かに座って行います。呼吸を整え、森の音や光、風を感じながら、目は閉じず、自身と自然とのつながりに深く意識を向けていきます。

これを日常でも実践しようと、公園の木やビルの谷間から空が見える場所を「秘密の場所」としていました。豊かな自然の中ではありませんが、自然とのつながりに意識を向けることで心のリズムが整い、仕事に追われる日々の中で、小

さな安らぎを見いだせたことを思い出します。

「秘密の場所」の実践方法は、川口さんの著書『ワイルド・クエスト』（誠文堂新光社、2023）に詳しく紹介されています。先人たちのスピリットを伝える言葉の一つひとつが深く響きます。興味のある方は、ぜひ手に取ってみてください。

◆ともだちの木

「秘密の場所」に通い、座って時間をとることが難しいという方は、通勤や通学の途中で出会う一本の木を「ともだち」と決めて、少しだけ立ち止まって観察してみるのもおすすめです。

毎日見るその木は、季節ごとに表情を変えているはず。冬には葉を落とし、枝に冬芽が顔を出します。幹の苔や枝のかたち、鳥や虫の動きにも目を向けてみましょう。昨日と同じ木のように、じつは少し違って見えるはず。

そうした小さな発見が自然の不思議やおもしろさの扉を開いてくれます。名前を知らない木でも構いません。気になる木を見つけたら、ぜひ試してみてください。

◆ネイチャージャーナリング

自然とのつながりを深める手法として、ネイチャージャーナリングもご紹介します。森林文化アカデミークリエイター科2年の石岡美優さんは、この手法を取り入れ「自然と他者とのつながりから、人が自分のリズムを取り戻す体験プログラムの開発」を行っています。

「ジャーナリング」は「書く瞑想」として注目されていますが、「ネイチャージャーナリング」は自然を観察して、絵や文字、数字で記録していきます。触れてみたり、匂いを嗅いでみたり、じっくりと書くことで、没頭する時間が生まれます。石岡さんの体験プログラムの参加者は、「集中して時間があつという間に過ぎていて、癒やされた」「日常の視点が増えた」と語っています。

筆を動かすうちに、自然をただ「見る（外的情報の受動的な取得）」から、不思議さや美しさなどを「感じる（感性で捉える）」へと変わり、やがて心の動きにも気づきます。このため「ネイチャージャーナリング」は自然に親しむと同時に、自分の内側にも向き合う、穏やかな時間となるようです。

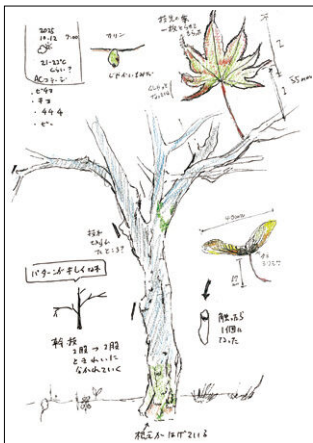
◆「感じる力」を育む

A1の進化は日々目覚ましいものがあります。調べればなんでもA1が答えてくれる時代になりました。情報を得ることは簡単になりましたが、自然の中で美しさや不思議さを「感じる」ことは、すべて実際の《体験》から生み出されま

す。自然界は、私たちがまだ知らない「未知」で溢れています。「知識・情報」で「見る・知る」ではなく、自然の中で実際に体験することが、未知への扉を開きます。未知への好奇心は日常の「ワクワク」を生み、人生を彩りあるものにしてくれます。

「ともだちの木」や「ネイチャージャーナリング」、そして「秘密の場所」で起こる変化から新たな《気づき》が生まれ、自然界との《つながり》を感じることができるようになる。生物としての「人」を考えると、自然と常につながる意識をもつこと、そして「感じる力」を育むことは、A1時代を生きる私たちにますます大切になるかもしれません。

あなたも、自分だけの「秘密の場所」を持つてみませんか？ 通える「森林」は、きつとあなたのすぐそばにあるはずです。



ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館では、木工工作が体験できる木育プログラムや積み木のスピードを競う木育プログラムなど、約60種類、年間約130日のプログラムを実施しています。

今回は、その中でも「作る」と「遊ぶ」の木育プログラムをご紹介します。

県立岐阜農林高等学校 × ぎふ木遊館「とびだせ ～オリジナルフォトフレームを作ろう!～」

令和7年10月4日に岐阜県立岐阜農林高等学校の森林科学科の3年生による“作る”木育プログラムを実施しました。

プログラムを実施した生徒さんは「ぎふ木育」をテーマにした課題研究に取り組んでいます。今回の木育プログラムを実施するにあたり、当館でぎふ木育に関する研修を受講し、企画書の作成、材料の用意など生徒さんの手で作り上げました。

最初に高校生の代表の方からフォトフレームの作成方法を説明していただき、参加者は木の実や葉、枝など森からの産物を使って、フォトフレームを作りました。最後に参加者が持ってきた写真を入れると、世界に1つだけのフォトフレームの完成です。参加されたお子さんは、小さな黄色のイチョウの葉や黒くてイガイガのヤシャブシの実、細長いマテバシイのどんぐりなど、色とりどりの材料に、目を輝かせながら飾りつけをしていました。

お子さんは最初、高校生のお兄さんお姉さん達に対して、緊張していましたが、高校生の皆さんから「赤い実もあるからつけてみたらどうかな」と声をかけたり、グルーガンを使う際に「ここに付けばいいのかな?」と積極的に交流していました。高校生のお話は保護者の方にも好評で、高校での普段の様子や、どういう進路があるのかなど、学校生活を实际に送る高校生と直接お話ができる貴重な機会となりました。



オリジナルフォトフレーム作成の様子



フォトフレームの向こうからの笑顔

けん玉やってみよう! ～けん玉スキルの検定会も開催～

ぎふ木遊館では木のおもちゃの中でも代表的なスキルトイであるけん玉を使った“遊ぶ”木育プログラムを実施しています。ながらけん玉コミュニティの宮川真澄(ぎふ木育指導員)さんにご協力いただき、けん玉の検定会や、けん玉を使ったパフォーマンスを行っています。今回は10月に実施した木育プログラムについてご紹介します。

当日はけん玉を持っていない方でも気軽に遊べるように、カラフルなけん玉が数種類用意されていました。また、プログラムに何度も通う熱心な参加者は宮川さんの指導を受けながら集中して練習していました。スタッフが写真撮影をしていると、ある男の子が見て見て!と「日本一周」という技を披露してくれました。技ができると達成感が得られ、次の目標ができる。そんなスキルアップができる木育プログラムです。

当プログラムはぎふ木遊館で定期的開催していますので、当館の公式Instagramをチェックしてみてくださいね。



けん玉の楽しさを伝える
講師の宮川さん



けん玉を全身で操るお子さん



☆ぎふ木遊館公式Instagramのご紹介☆

ぎふ木遊館で行われる木育プログラムやイベント情報、館内の様子や木のおもちゃの話等を公式Instagramにて発信しております!

まだ来館したことない方も当館の様子がわかりますので、ぜひフォローをお願いします。



GIFUMOKUYUKAN8717





やがてみんなの森になる

morinos

「森のじかん」紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（morinos）は、県内の幼保小中学校等に森の空間を活かした出前型の体験プログラム、「森のじかん」を提供しています。今回はひなたぼっこ保育園での出前体験について紹介します！

<ひなたぼっこ保育園のみんなと森へおさんぽ!>

ひなたぼっこ保育園は土岐市にあり、近くには「陶史の森」という緑いっぱいの森林が広がる恵まれた環境があります。当園では、普段から陶史の森をおさんぽコースとして利用しており、森林散策を楽しんでいます。今回は、森に詳しいmorinosスタッフと一緒に自然遊びをしながら、みんなで陶史の森をおさんぽしました。

1～5歳までの異年齢の子どもたちが、仲良く手をつないで森の中の面白いものを見つけながら歩きました。ヨモギの葉の匂いを嗅いでみたり、ねこじゃらしを手にとってゆらゆら揺らしたり…それぞれの方法で五感をつかって、自然を満喫していました。



森の遊歩道にはどんぐりや落ち葉がたくさん!お気に入りの葉っぱや木の実を見つけては、持ってきた袋いっぱいに入れました。スタッフが「この葉っぱに穴をあけるとお面みたいになるよ!」「この実は熟すと食べられるよ!」と伝えると子どもたちは興味津々。普段おさんぽコースで利用する道でも、いろんな発見ができて子どもたちは目を輝かせていました。



いっぱいおさんぽして、あっという間に園に帰る時間になりました。一番驚いたのは、子どもたちみんなが弱音を吐くことなく最後まで自分の足で歩き切ったことです。途中、大人でもなかなか大変な道もありましたが、一生懸命ついてきてくれました。

今回の「森のじかん」では、特別なプログラムを組むのではなく、子どもたちの「やりたい!」ことを優先しました。この体験を通じて、子どもたちが身近な自然に目を向け、小さな発見や感動をたくさん経験してくれたら嬉しいです。

morinos HPでは、こうした日常風景からプログラムまで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

YouTube 検索「morinosチャンネル」

開館時間 10:00～16:00

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取り組みを行っています。こうした取り組みの内容について連載で紹介します。

7

脱炭素社会に貢献する森林づくり事業

【事業概要】

気象災害による被害森林や皆伐後の天然更新が見込めない森林のうち、森林所有者等による整備が困難なものについて、森林の持つ多面的機能の維持・向上・回復とともに、二酸化炭素吸収量の増大に貢献するため、早生樹等の植栽を進めます。

森林所有者と事業実施者、市町村が本事業の実施に合意し、三者で協定を締結し実施する場合、県は人工造林に係る費用等を助成します。

【補助対象者】

市町村、森林組合、林業事業者等

【対象森林】

- 環境保全林内で森林経営計画が策定されていない皆伐跡地
- 脱炭素社会に貢献する森林づくりに関する協定を締結している森林 など

【補助率】

定額補助 ※参考例：地拵え+植栽（早生樹1,500本/ha）≒約104万円/ha（R7単価より）

【事業内容】

- 植栽
適地適木を原則とするが、市町村森林整備計画に定められた樹種や、成長が早く二酸化炭素の吸収が期待できる早生樹等（コウヨウザンほか）を優先
（原則コンテナ苗使用、植栽本数1,500本/ha以内）
- 地拵え
林内の刈払いと伐採後の枝葉・梢端部等の除去を行い、植栽を実施
- 特殊地拵え
被災森林の伐採等整理を実施（実施後、2年以内に植栽）
- 雪起こし・下刈り（1齢級まで）
- 鳥獣害防止施設等整備
忌避剤散布や幼齢木保護材、防護柵の設置



【実績】

令和4年度の事業開始時から令和6年度までに、計67haの再造林を実施



植栽後2年が経過した現場
（八百津町・スギコンテナ苗+幼齢木保護材）



樹高2mを超えるものもあり、
順調に生長しています。

【これからの取り組み】

清流の国ぎふ森林・環境基金事業の第3期（令和4年度～令和8年度）において、100ha（20ha/年）を目標に、脱炭素社会に貢献する森林づくりを進めます。

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取り組みを行っています。こうした取り組みの内容について連載で紹介します。

8

令和7年度 ぎふエコアクション 学生アンバサダー 育成研修

◆過去の実績（学生アンバサダー認定者数）

令和2年度19名 令和4年度14名 令和5年度11名 令和6年度17名（令和3年度は中止）

岐阜・東濃
2会場開催

【事業目的】

岐阜県では、地球温暖化防止対策のための普及啓発活動に、ともに取り組む学生を育成するための研修を行っています。

【事業内容】

地球温暖化についての基礎講座をはじめとしたグループワークの講座3回と岐阜県の環境イベントに参加する実地研修1回の全4回の研修を行っています。修了した方は「学生アンバサダー」として認定し、温暖化防止活動に取り組んでいただくとともに、地球温暖化対策推進法に基づく「地球温暖化防止活動推進員」になるきっかけとしています。



清流ミナモ

【令和7年度の事業実績】

大学生5名、高校生16名が講座を修了しました。現在、実地研修に取り組んでいます。



これまで
受講された
みなさん
の声

地球温暖化に限らず、
集団で話し合う時に意識するポイントや、ものの考え方を教えていただき、タメになった。

幅広い人達对环境に対する
意見を多く聞くことができ、
良い経験になった。

温暖化対策に自分が関わらないといけないという自覚や責任感が芽生えた。漠然としていた温暖化対策への気持ちが明確になった。

【研修内容】

	開催日	場 所	内 容
第1回 講座1	10:00~14:00 【岐阜】8月 6日(水) 【東濃】8月20日(水)	【岐阜】岐阜県庁議会棟 第1会議室① 【東濃】東濃西部総合庁舎 5南会議室	午前:全体説明、グループ分け、自己紹介 午後:基礎講座
第2回 講座2	10:00~14:00 【岐阜】8月 7日(木) 【東濃】8月21日(木)	【岐阜】岐阜県庁 20階 会議室2004 【東濃】東濃西部総合庁舎 5南会議室	午前:グループワーク(企画) 午後:グループワーク(まとめ)
第3回 講座3	10:00~11:30 【岐阜】8月 8日(金) 【東濃】8月22日(金)	【岐阜】岐阜県庁 20階 会議室2004 【東濃】東濃西部総合庁舎 5南会議室	グループワーク(発表会) 振り返り
第4回 実地研修	9月~2月	選択した研修先 (岐阜県農業フェスティバル 等)	県内環境関連のイベントにて 地球温暖化防止対策の普及啓発・ブース運営

スギ心去り平角の内部割れを抑える 処理方法の検討

岐阜県森林研究所 田中 健斗

はじめに

当所では、大径化するスギ丸太の利用拡大のため、1本の丸太から髄を含まない心去り平角を2本製材し、心持ち平角材と同等程度の期間で乾燥できるスケジュールの開発、強度性能の検証を行っています。短期間での乾燥には高温による乾燥処理が必要ですが、高温乾燥の適用は材料内部の割れ（内部割れ、写真1）を引き起こし、強度性能低下の原因となります。当所では以前、特殊な条件下での乾燥工程中に



写真1 内部割れ発生の様子
左：心去り材 右：心持ち材

蒸煮処理（90℃前後の蒸気で乾燥庫内と材料を昇温する乾燥工程初期に行う工程）を行う（以下、「中間蒸煮処理」）ことで内部割れを抑制できることを明らかにしました。しかし、当所保有の乾燥機と同様の能力を有する乾燥機を保有していない県内事業者においても内部割れの少ない乾燥ができることが求められます。そのため、県内事業者が実施できる乾燥スケジュールに中間蒸煮処理を組み込んだ際の内部割れ抑制効果について検討したので、その結果をご紹介します。

現状の乾燥スケジュールを改良した内部割れ抑制技術

県内事業者が乾燥工程で採用しているスギ心持ち平角用の高温乾燥スケジュール（約10・5日間）の途中で中間蒸煮処理を組み込むことによるスギ心去り平角の内部割れ抑制効果を確認するため、中間蒸煮処理を乾燥期間の約半分のタイミングで再度12時間行いました。スギ心去り平角の乾燥終了後、末口から約40cmの位置から内部割れ測

定用試験片を切り出し、スキャナで取り込んだ画像から内部割れの総長さを測定しました。

内部割れ発生量の比較

図1に中間蒸煮処理の有無による内部割れの発生量を示します。中間蒸煮処理により、内部割れ発生量の平均値が小さくなり、発生量のばらつきも大幅に軽減される結果となりました。試験体の曲げ強度試験（図2）の結果、中間蒸煮処理を行わなかったグループの試験体では壊れにくさの指標である曲げ強さが低いのがみられました。さらに一部の材では建築基準法施行令に定めるスギ無等級材の基準強度を満たさないものもみられました。それらを確認すると内部割れを起点としたせん断破壊による強度低下が発生していました。

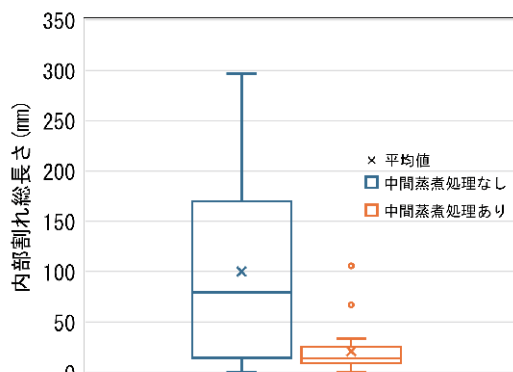


図1 内部割れ発生量と処理条件の関係

おわりに

強度低下の大きな原因となる内部割れの発生を中間蒸煮処理により抑えられる可能性があることが示されました。今後は中間蒸煮処理の最適な処理時間、処理タイミングを検討し、現場の製造サイクルを妨げない適切な乾燥スケジュールを開発していきます。

また、中間蒸煮処理が心持ち平角の内部割れ抑制に効果があれば、より高品質で安心して使用できる材料の供給が進むと考えられるため、その検証も行っていく予定です。

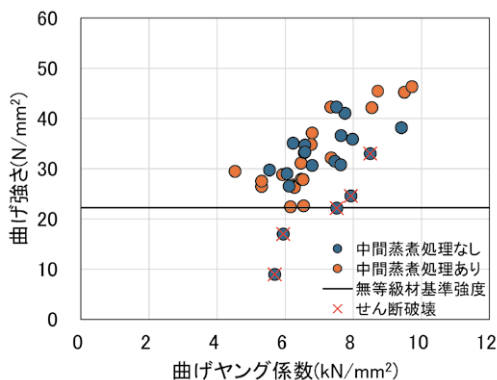


図2 曲げヤング係数と曲げ強さの関係

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 05675-1331-26985
森林研究所まで

小径広葉樹材の有効利用技術の開発

岐阜県生活技術研究所 今西 祐志

はじめに

岐阜県生活技術研究所では、早生樹等の国産未活用広葉樹材を家具・内装材として利用拡大するための技術開発コンソーシアムに参画し、令和4年度から令和6年度にかけて研究を行いました。この研究は、生物系特定産業技術研究支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」(JPJ007097)の支援を受けて、国立研究開発法人森林研究・整備機構を代表機関として、山形県工業技術センター、福岡県農林業総合試験場、飛騨産業株式会社との共同により実施したものです。ここでは、当所が担当した研究課題のうち、国産広葉樹の異樹種集成板の表面硬さと寸法安定性及び表層PETラミネート加工の効果を検査した結果を報告します。

木製家具の原材料の状況

木製家具や内装材の原料である広葉樹材は、その8割以上が北米、欧州等からの輸入材です。このような状況に對して、世界的な資源の減少と獲得競争による価格上昇、ウッドショックや

地政学リスクに伴う流通量や価格の不安定化、企業のSDGs達成のため、国内の広葉樹材の活用が検討されています。

しかしこれらの広葉樹材は、量的なまとまりがなく比較的小径で、樹種も多様です。したがって、利用にあたっては異樹種での接着集成が欠かせないと考えられますが、表面硬さのばらつきや温湿度負荷に対する寸法安定性など、実用面で必要な特性についての情報が不足しています。

異樹種集成板の特性評価

ホノノキとハンノキ、コナラとセンダンの組み合わせで異樹種同士を組み合わせた幅はぎ板を作製し、表面硬さ及び寸法安定性を評価しました。ラミナは2樹種が交互に並ぶように配置しました。また、これら幅はぎ板の表層に厚さ1mmのPETシートを積層接着(表層PET)した板を併せて作製し、同様の評価を行いました。

表面硬さの評価はJIS Z 2101に従って、試験体の表面に鋼球を圧入する方法により行いました。寸法安定

性の評価は、試験体に温湿度負荷を与えて反り特性を評価しました。温湿度条件は次のとおりです。

〔40℃・90%・48時間〕→〔40℃・20%・48時間〕×2回→〔40℃・48%・48時間〕

特性評価の結果と表層PETの効果

結果の一例として、ホノノキとハンノキを組み合わせた幅はぎ板についての評価結果を図1、図2に示します。

図1は部位ごとの表面硬さを示したものです。ホノノキ部とハンノキ部とを比較すると、表層PETの有無に関わらず、密度の大きいハンノキ部の方が表面硬さはやや大きく、幅はぎ部の表面硬さは木部よりもやや大きい結果となりました。これは接着層の硬さの影響と考えられます。表層PETを施すことによって表面硬さの平均値が増大して、変動係数(ばらつき)は減少しました。

温湿度条件に対する反り特性については、表層PETの有無に関わらず、各方向の反り率の大小は大きい順に幅方向、対角方向、長さ方向でした。図2は温湿度条件に対する幅方向の反り率の経時変化を示したものです。表層PETを施すことで幅方向の反り率が大きく低減しており、表層PETが寸法安定性の向上に有効であることが確認されました。

おわりに

当所では現在、特に飛騨地域に多く生育する広葉樹を対象に材の物性データの蓄積を進めています。これにより、広葉樹材の用材としての有効活用を目指しています。

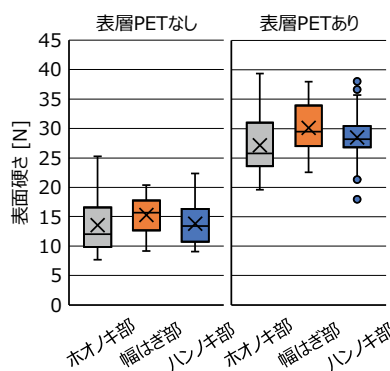


図1 各部位の表面硬さ

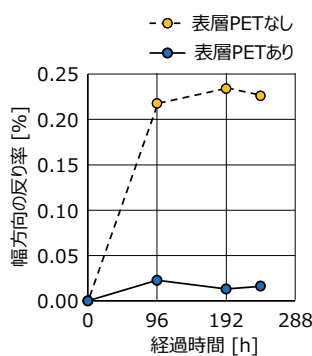


図2 幅方向の反り率の経時変化

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 0577-3331526
岐阜県生活技術研究所まで

誘引補殺器による蜂刺され対策について

中濃農林事務所林業課
伊藤 智弥



はじめに

夏場の現場作業では蜂刺されに注意が必要です。特にスズメバチは攻撃性が強く、刺された場合は危険な状態に陥ることもあります。蜂刺され災害は減少傾向にありますが、令和5年には全国で林業従事者2人が死亡しています。

蜂の攻撃の特徴として、巣への接近に対する警戒・威嚇、巣への間接的・直接的刺激に対する攻撃があります。蜂に刺された時の症状としては、患部に出る局所症状、体中に出る全身症状があります。呼吸や嚥下が困難になり、全身が脱力して、緊急措置が必要なる場合もあります。

対策の現状

蜂に刺されないためには巣に近寄らない、巣に振動等の刺激を与えない、巣の近くで作業をしない、防蜂網や防蜂手袋の着用のほか、蜂スプレー、吸引器や自動注射器の携行等の対応が必要です。

これ以外の対策として、誘因捕殺による方法があり、国有林で取組の事例があります。

取組の内容

中濃森林組合では、これまで蜂スプレー、防護網の着用、吸引器や自動注射器の携帯を行ってきました。しかし、令和6年は8月上旬から9月上旬にかけて、下刈作業で5人が蜂に刺されており、中濃森林組合にとって対策が必要であると考え、今回の取組を提案しました。

今回、蜂の誘引補殺を関市武芸川町谷口寺尾地区で実施しました。当該地区は、中濃森林組合が地元の財産区から委託を受けて森林経営計画を樹立し、令和3年9月から主伐・再造林を実施しています。

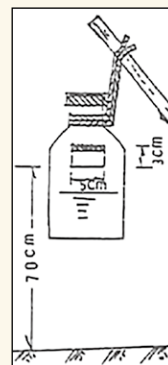
令和7年度は当該箇所では下刈の計画がありました。この箇所では例年蜂の巣が7箇所程度発見されていました。

誘引補殺器の材料は容器と溶液です。容器は2ℓペットボトルを6本用意しました。容器の上部に5cm×3cmの穴を開け、穴の上側を切り取らずに上方に折り曲げて雨除けにしました。

溶液は、清酒1.8ℓと食酢250mlに砂糖500gを溶かして作り、1本



設置状況



設置方法

の容器に約300ml入れました。溶液は蒸発するため、設置してから溶液を2回補充しました。2回目の補充では、清酒をぶどうジュースに変更しました。

1haごとに約1箇所の割合で、総面積5haを対象に、下刈作業前に県道と作業路沿いに6箇所設置しました。

溶液を入れた容器の首部に紐をつけて支柱に吊り下げ、容器の穴が地上から約70cm程度の高さになるよう設置しました。

結果と考察

令和7年6月16日から7月24日までの39日間設置しました。誘因捕殺数は合計104匹、日当たり約3匹、ha当たり約21匹でした。

今回は後述の参考文献の取組と比べて、短い期間で、ha当たりの設置箇所数は同じでしたが、日当たりの匹数は下回る結果となりました。

参考文献では、10日ごとに捕殺された蜂を容器外へ排出していたと考えられ、新規に蜂が入りやすい状態であったと考えられます。

今回の取組では、捕殺した蜂は撤去時まで容器外に排出しなかったため、新規に入りにくい状態であったと考えられます。

県道沿いの箇所では20〜31匹捕殺され、他の箇所よりも多い結果とな



捕殺状況

りました。

◆実施後の効果

誘因捕殺器を撤去後、中濃森林組合は8月29日から9月24日まで、当該地区で下刈作業を実施しました。作業員によると、「毎年蜂が出ていたのに今年は少なかった」「巣は2個しか発見できなかった」「9月下旬に作業員1人がスズメバチに首を刺された」との話があり、今回の取組により蜂の発生が例年よりも減少し、蜂刺され被害が1件に減少したこと、誘引捕殺による予防方法は、蜂対策として有効ではないかと考えました。中濃森林組合では、今回の取組が現場作業員に好評でしたので、来年度は設置箇所数を増やして、下刈作業が完了するまで設置したいとのことでした。

◆今後の課題

①蜂の習性を利用した捕殺の検討

蜂の第1の習性として、女王蜂は4月下旬から7月にかけて巣を作り、1匹の女王蜂が作った巣から4000〜5000匹もの大群の蜂が生まれます。このため、女王蜂の巣作りの時期に誘因捕殺を実施することで蜂の大量発生を抑えることができます。

第2の習性として、蜂は通常巣から半径2 km程度の範囲内で行動します。

第3の習性として、蜂は南向きの日当たりの良い、風が強く当たらない場所を好みます。

これらの習性を利用して、4月下旬から、道沿いの蜂の好む箇所に、蜂が巣から行動する範囲内、例えば約500 mの間隔で誘因捕殺器を設置することは効果的であるといえます。

②設置期間の検討

下刈作業の完了まで設置すること、さらに効果があると思われます。

③溶液の検討

清酒とぶどうジュースを2対1の割合で混合しても効果はあるとの事例があり、費用の面から試す価値があります。

④捕殺容器の検討

特に攻撃性が強いスズメバチ類が選択的に捕殺されるように、改良型の事例があり、試す価値があります。

⑤捕殺した蜂の容器外への排出

約10日おきごとに捕殺した個体を容器から排出して、新規に蜂が入りやすい状態にすることで、1日当たりの捕殺匹数が増えるのではないかと考えられます。

◆おわりに

主伐・再造林を進めていく中で、下刈は避けて通れない作業です。安全で確実に作業することは労働環境改善にも有効であるため、誘因捕殺器設置等による蜂の予防対策が必要であると考えます。

*参考文献「蜂の誘引捕殺の効果と問題点」佐藤吉則、「蜂の習性と誘引捕殺」佐藤辰郎

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-33-4011

中濃農林事務所まで

森林技術開発・支援センター 林業普及通信

林業普及指導員 中部・北陸ブロック シンポジウムを開催しました

林業普及指導員同士が、地域における現状や課題を共有し、今後の林業普及指導活動につなげることを目的に、令和7年10月2日と3日、中部・北陸地区8県の林業普及指導員などが一堂に会すブロックシンポジウムを高山市、飛騨市で開催しました。

シンポジウムでは、初日に、各県の代表が普及事例発表を行ない、2日目には、各県の課題に対する意見交換、「飛騨市の広葉樹のまちづくり」の紹介、その後、広葉樹の土場と広葉樹専門の製材所を視察しました。

各県からの普及事例発表では、日頃、それぞれの普及指導員が取り組んでいる普及指導活動やその成果が発表され、最も優れた発表は、12月に開催される全国シンポジウムでの発表者として選考されました。

発表内容には、森林・林業に関する知識、技術をもった職員を配置できない市町村へ、普及指導員が施業地の集約化、森林経営計画樹立・森林経営管理制度の推進の支援を行い森林整備が進んだ事例、地域の林業の担い手を育成するため設立したばかりの林業事業体に主伐再造林・路網計画・現場管理の方法を支援した事例、広葉樹の活用を推進するため製材した板等の乾燥をビニルハウスで実施し、その可能性を検証した事例等がありました。

岐阜県からは、東濃農林事務所の長沼普及指導員が、「獣害対策の再考」

と題して、二ホンジカの食害や防除資材の破損状況、植栽木の樹形異常を調査し、それぞれの防除資材使用における注意や定期的な見回り、資材破損箇所の記録の必要性の指導を地元森林組合に行うとともに、防除だけではなく、積極的な捕獲を猟友会の協力のもとに進めることを市町村へ提案した事例を発表しました。

最優秀発表は、「市有林の整備に向けた伴走支援」と題して発表した石川県の普及指導員が選ばれましたが、審査委員長より、どの県の発表も甲乙付けがたい素晴らしい発表であったと講評がありました。今回、参加した普及指導員には大変、参考となり、今後、地域の林業振興のための普及活動に期待をすることができました。



●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-33-5131

森林文化アカデミー

森林技術開発支援センター

普及企画係まで

令和7年度 岐阜地区国有林野等 所在市町村長有志協議会開催

岐阜地区における地域社会と国有林野事業及び官行造林事業の連携強化を図り、もって地域農山村の社会経済の発展と国有林野事業並びに官行造林事業の円滑な遂行に寄与することを目的として、岐阜森林管理署管内の右記の目的に賛同する市町村長、岐阜森林管理署長、森林・技術支援センター所長で構成する岐阜地区国有林野等所在市町村長有志協議会が設置されています。

本協議会は、年に1回通常総会を開催しており、令和7年度の通常総会を10月7日に開催しました。今年度の通常総会では、今年の春先に、岩手県大船渡市、岡山県岡山市、愛媛県今治市など、全国各地で大規模な林野火災が相次いで発生したことを踏まえ、林野火災をテーマとして、林野火災や気象災などを対象とした森林防災の専門家による講演後、出席者による意見交換を実施しました。

今回、講師に招いたのは、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林防災研究領域 主任研究員の玉井幸治様で、玉井氏から「林野火災対策としての森林管理の考え方」と題して講演いただきました。



玉井講師

講演では、今年は、既に5件の大規模林野火災（焼損面積1.5㎏以上）が発生しており、過去20年で最大の発生回数となっていること、その要因として、乾燥した日が長く続いたことが強く関係しているとの説明がありました。

また、大船渡の林野火災では、焼損面積が33㎏を超えたことに触れ、過去20年の林野火災による焼損面積が最大でも6㎏未満であったことを踏まえると非常に甚大な被害をもたらしたと説明されました。

乾燥した日が長く続いたことに加え、瞬間最大風速18m/秒の強風にあおられ、延焼域が急速に拡大したと考えられるとのことでした。

林野火災に対応した森林管理を考える場合、林床が燃えなければ林野火災の発生の危険度が低くなるため、林床可燃物

を燃えにくい状態（林床可燃物の含水比20%以上では燃焼しない。）にする必要があり、そのためには林床が乾燥しない（樹冠が閉鎖して日射が林床に届きにくい）状態であるほど、林野火災の発生リスクが下がるという説明がありました。

また、林床の植生によっても燃え広がり方が違い、コシダやウラボシ、ササなどが茂っている林分では火の勢いが増すので注意が必要との説明がありました。

岡山県玉野市における林野火災跡地の復旧事業について紹介があり、貯水機能を持った治山ダムを設置し、土砂災害対策と防火用水の確保を両立させている事例や、防火帯としての機能を持たせるため、舗装道路を設置している事例などについても説明がありました。

その他、たばこの投げ捨て対策として、沿道に防火樹（サンゴジュ・トベラ・ネズミモチ・シャリンバイ）を植えている状況の紹介がありました。

講演後の意見交換では、下呂市の山内市長からは、下呂市金山町で林野火災を想定した消防訓練を実施したことの紹介がありました。

山県市の林市長からは、消防団に所属していた際、ジェットシューターを背負って林野火災の消火に当たった経験を紹介されるとともに、山林に隣接している集落周辺で設定しているバッファゾーンは、林野火災の延焼を防ぐ効果は認められるのかとの指摘がありました。

これに対して、玉井氏からは、主に獣害対策として設置しているバッファゾーンは、林野火災の延焼を防ぐ効果も

期待できるが、雑草が生い茂っている状態では、林野火災の延焼を防ぐことはできないため、しっかりと管理することが必要との説明がありました。



意見交換の様子

岐阜市農林課の山内課長からは、今年、大規模な林野火災が多発した要因として、地球温暖化による異常気象が影響しているのかとの疑問が示されました。

これに対し、玉井氏からは、異常気象が影響しているかどうか、現時点で判断することはできないとされた上で、気候変動予測では、現在のところ風が強くなるということについて記載はないが、風が強くなれば、大規模林野火災の発生の危険度は高まることから、地球温暖化の影響で風が強くなったり、乾燥が続くようなことになれば、林野火災の多発につながることは十分考えられるとの説明がありました。

最後に、日本で発生する林野火災は落雷に起因するものを除き、そのほとんどが人間の不注意により発生しているとのことでした。

大切な森林を焼失させることのないよう、火の用心に心がけましょう。

（岐阜森林管理署）

開催日	行事名等	内 容 等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場 所
			申込(問合せ)先/TEL
12月10日(水)~ 12月12日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間 10日 学科 8:50~17:10 11日 学・実 8:50~12:30 12日 実技 8:30~17:10 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 24,200円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。) 	10日(学科) 11日(学・実) ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 12日(実技) (樹木の国 土場(山県市椎倉203-1)) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
令和8年 1月14日(水)~ 1月15日(木)	木材加工用機械作業 主任者技能講習	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間: 14日~15日 8:30~17:40 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 17,600円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

自転車通勤をしていると、ふと季節の香りを感じることがあります。なかでも一番のお気に入り、秋に桂(カツラ)の木が黄葉したときに漂う、綿菓子のような甘い香りです。

この香りを嗅ぐと、学生時代に登山で訪れた上高地を思い出します。長い山行を終えた河童橋の沢沿いで、下山した開放感も相まって、とても印象的だったのを覚えています。

この香りが気になって調べてみると、桂の葉は青いうちは香らず、老化したり乾燥すると「マルトール」という甘く温かみのある香り成分が生まれるのだそうです。黄葉すると香る葉は珍しいらしいのだとか。

皆さんにとって、“季節を感じる香り”はなんですか？

「森林のたより」編集委員 森林保全課 奥中 大智

1月号予定

イベント情報

連載

●山の歳時記(245)

地域の人

清流と森と親しむ

●森林と人を活かす知恵(156)

木と親しむ

●岐阜県の公共木造建築(153)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

●研究・普及コーナー

市況情報

その他

1月1日
発行

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所
単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1891回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	14,200	—	→
		4 m	16~18cm	14,200	—	→
			20~22cm	14,900	—	→
			24~28cm	14,800	—	↗
			30cm以上	14,000	40,300	→
	ひのき	6 m	16~22cm	17,200	—	→
		3 m	16~18cm	21,800	—	↗
			20cm以上	19,500	26,000	→
		4 m	16~22cm	21,300	—	→
			24~28cm	19,500	—	↗
			30cm以上	19,200	168,400	→
		6 m	16~18cm	—	—	→
第1491回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,200	—	→
		4 m	24~28cm	14,600	—	→
			30cm以上	13,600	—	→
	ひのき	3 m	16~18cm	21,000	—	→
		4 m	20~22cm	20,500	—	→
			24~28cm	19,200	—	→
			30cm以上	—	—	→
		6 m	16~20cm	—	—	→
	ひめこ	4 m	24~28cm	12,000	—	↘
			30cm以上	12,000	—	→
		5 m	40cm以上	—	—	→
	くり	4 m	24cm以上	14,000	—	→
第1825回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,200	—	→
		4 m	24~28cm	14,400	19,000	↗
			30cm以上元	15,000	60,000	→
	ひのき	3 m	16~22cm	21,500	29,000	↗
			24~28cm	19,800	31,000	↗
			30cm以上元	28,000	42,000	→
		4 m	13cm以下	12,000	—	→
			16~22cm	21,700	25,000	→
			24~28cm	19,800	42,000	→
			30cm以上元	29,000	250,000	↗
		6 m	18~22cm	29,500	—	→
	まつ	4 m	30cm以上元	—	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4m元木、尺上良材は入札多数で活気あり、価格は保合。スギラミナ向け3m・4m材は強含み。ヒノキ元木良材4mは入札旺盛で活気あり、価格は強含みで引き合いは強い。ヒノキ3m・4m構造材の価格は強含み。合板向けは価格は保合ながら納材は順調。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

針葉種は横ばいで推移。広葉樹は冬期に向けた仕入れが活発になってきた。ヒメコの入荷が多少あったものの若干弱い気配。高値はナラ2.2m×38cm@51,000円、ホウ2.2m×30cm@33,900円、ブナ2.2m×46cm@38,300円、クリ2.1m×34cm@36,200円、ミズメ2.2m×32cm@36,000円(飛騨)

スギ、ヒノキともに、新材の大径良材に多数の応札があり、活気を見せた。ヒノキは4mの元木・中目良材も地元工務店を中心に引き合いが強い。3m材も引き合いは強く保合で推移。3m・4m並材は保合で推移、2m尺上良材は堅調、一方で20cm以下の材は弱含み。スギは、元木・中目良材は価格強含み保合で推移。4m(24cm以上)構造材は保合、3m材も保合。6m長柱向け材(16cm~20cm)は引き続き好調を維持。合板向け材は価格保合ながら納材は順調に進んでおり、ラミナ向けもスギ・ヒノキともに活発な動き。(東濃)

製品卸売標準価格 (10月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m³当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	(2,249)	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	(662)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	77,000	(3,396)	→
	柱	3000	120	120	特等	75,000	(3,240)	→
		6000	120	120	特等	155,000	(13,392)	→
W集 ウ成 ッド材	柱	3000	105	105	国産5層	85,000	(2,800)	→
		3000	120	120	国産5層	88,000	(3,800)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (10月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	414	→
	コースト(目荒)	432	→
米楡	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

めまわ
目回り

年輪に沿って生じた割のこと。風害、凍裂・霜裂・寒裂、伐倒時の衝撃等が原因で生じる。目回り部分を製材するとバラバラになってしまうので、製材用原木としての価値を著しく低下させてしまう。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典